根拠に基づいた指導を目指した簡易なアセスメントツールの開発

令和２年度
刈谷市立刈谷特別支援学校実践研究協議会　第1分科会

根拠に基づいた指導とは

根 拠 ▶ **学習指導要領**

教育の理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるもの

特別支援学校における児童生徒の指導

個別の教育支援計画

個別の指導計画

個に応じた指導

学習指導要領など根拠に基づく

教員の経験や勘によって行われている現状

これまでの取組

個別の指導計画・学習指導案・授業案に
学習指導要領で示される段階を明記

実際は…

学習の系統性・連続性、段階間の接続まで意識することは難しい

▶ それまでの学習の踏襲に陥りやすい

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援

学校教育目標

学習指導要領に示される各教科等の目標・内容等

指導内容の選択

指導内容の組織

何を
どのように
学ぶか

アセスメントツールの開発

学習指導要領に示される目標・内容が一目でわかる

児童生徒の学習状況が確認できる

学校として指導すべき内容を明確にする。

「学習の内容段階表」の作成

「学習の内容段階表」の構成例

段階	学習指導要領	
	知的障害者である児童生徒を教育する特別支援学校	小 学 校
6	高等部1・2段階	—
5	中学部2段階	—
4	中学部1段階	3・4年
3	小学部3段階	1・2年
2	小学部2段階	—
1	小学部1段階	—
前	小学部1段階前	

卒業時点で
何ができるように
なっているとよいか

関連性・発展性を
もたせる

どのような力が身につけば、各教科の1段階につながるのか

「学習の内容段階表」の構成

自立活動 6区分27項目

児童生徒の実態

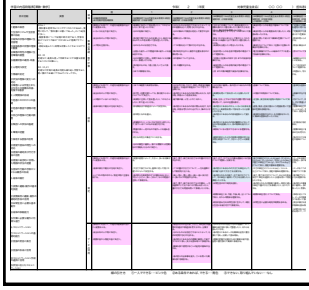
前 1 2 3 4 5 6

それまでの
学習を継承し
積み上げていく

12年間の学校生活

卒業までに育成を
目指す資質・能力に
重点を置く

「学習の内容段階表」の活用



- 一人でできる
- ある条件でできる
- 学習していない

※条件は実態欄や個別の指導計画に記載

課題となる内容が分かりやすい。

令和元年度の取組

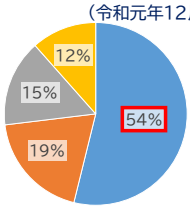
国語、算数・数学の「学習の内容段階表」の作成

児童生徒の学習状況や定着度をチェック

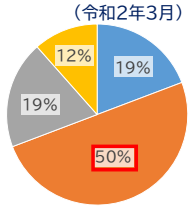
活用方法等の意見や感想を集約

児童生徒の学習状況　＜国語（令和元年度）＞

担任がチェックした段階
（令和元年12月）



実際に学習した段階
（令和2年3月）

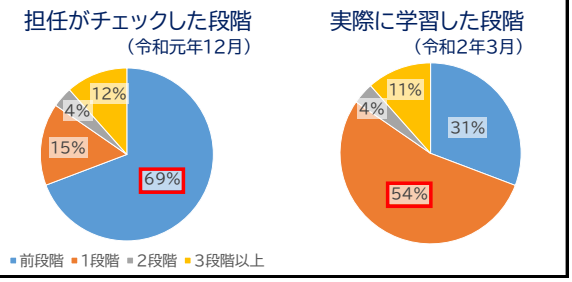


■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜国語＞令和元年度

- 担任がチェックした実態は、前段階が多いが、実際に学習に取り組んだ内容を見ると、1段階が多い。
- 2段階であるとチェックしている児童生徒の一部は1段階の内容の学習をしている。

児童生徒の学習状況＜算数・数学（令和元年度）＞



＜算数・数学＞令和元年度

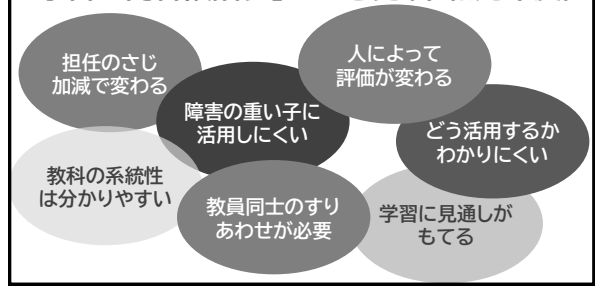
- 国語と比較すると、担任が前段階であると判断している児童生徒数が多い。それにより、教員が算数・数学的な内容の学習の難しさを感じていることが分かる。
- 学習している内容は1段階が多く、実態に合っていない学習をしている可能性がある。

児童生徒の実態と学習内容の段階

- 担任がチェックをした実態と実際に取り組んだ学習の段階に違いが多い。
- 児童生徒の実態によることなく、それまでの学習内容などをもとに教師の感覚で指導計画を立てている可能性がある。

指導内容の選択が適切に行われていない。

「学習の内容段階表」への意見（令和元年度）



令和元年度「学習の内容段階表」の課題

- 国語と算数・数学のみでしか「学習の内容段階表」を作成できなかった。
- どう活用するのか、校内で統一できていなかった。
- 担任が主観で児童生徒の学習状況をチェックするのみになったケースが多かった。

令和2年度に向けて

「学習の内容段階表」の役割

- 教科の系統性・連続性が明らかになる。

➡ **12年間を見通した指導につなげられる。**

- 学習内容を組み立てるとき参考にできる。

➡ **話し合う際の共通のツールにできる。**

令和2年度の研究の方針

- 全ての教科で「学習の内容段階表」を作成する。
- 「学習の内容段階表」を全職員に周知して、効果的な活用方法を検討する。

令和2年度の取組

全ての教科の「学習内容段階表」の作成

活用の促進

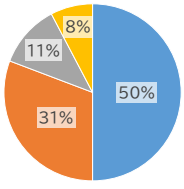
児童生徒の学習状況や定着度をチェック

話し合いによる

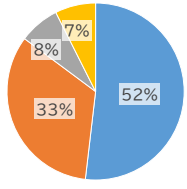
活用方法等の意見や感想を集約

学習状況チェックと学習内容　＜国語＞

担任がチェックした段階（令和2年8月）



実際に学習した段階（令和3年1月）



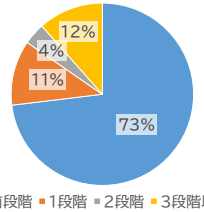
■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜国 語＞令和2年度

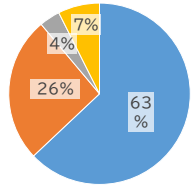
- 担任がチェックした実態と、実際に児童生徒が取り組んだ内容にほとんど違いがなくなった。
- 前段階である児童生徒の学習は、手だてで絵本の読み聞かせを取り入れるなど、1段階の内容を踏まえて計画されているものも多く見られた。

学習状況チェックと学習内容＜算数・数学＞

担任がチェックした段階（令和2年8月）



実際に学習した段階（令和3年1月）



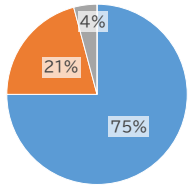
■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜算数・数学＞令和2年度

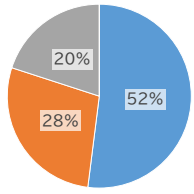
- 前段階であるが1段階の内容を学習していたり、3段階以上であっても前の段階を学習していたりすることが分かる。
- 前年度に比べ、担任がチェックした実態と、実際に児童生徒が取り組んだ内容の違いは少なくなってきている。

学習状況チェックと学習内容　＜生活＞

担任がチェックした段階
（令和2年8月）



実際に学習した段階
（令和3年1月）



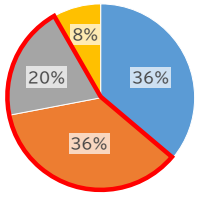
■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜生 活＞令和2年度

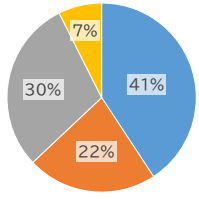
- 担任がチェックした実態と、実際に学習している内容の段階と違いが大きい。
- 領域が多岐にわたっているため、単元として取り上げるときに教科全体に渡らずに一部を学習することもある。

学習状況チェックと学習内容　＜音楽＞

担任がチェックした段階
（令和2年8月）



実際に学習した段階
（令和3年1月）



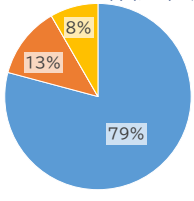
■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜音 楽＞令和2年度

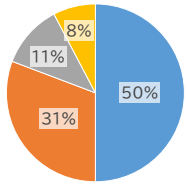
- 他の教科に比べ、前段階の割合が少なく、1・2段階を学習する児童生徒が多い。
- 担任がチェックした実態と、実際に学習している内容の段階に違いが少ない。

学習状況チェックと学習内容＜図工・美術＞

担任がチェックした段階
（令和2年8月）



実際に学習した段階
（令和3年1月）



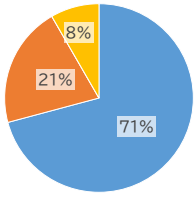
■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜図工・美術＞令和2年度

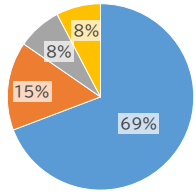
- 担任がチェックした実態と、実際に学習している内容の段階に違いが大きい。
- 前段階の児童生徒の多くが、表現の技能において、実際に素材に触れたり、色を使って線などをかいたりする学習（1段階）に取り組んでいる。

学習状況チェックと学習内容＜体育・保体＞

担任がチェックした段階
（令和2年8月）



実際に学習した段階
（令和3年1月）



■前段階 ■1段階 ■2段階 ■3段階以上

＜体育・保健体育＞令和2年度

- 担任がチェックした実態と、実際に学習している内容の段階に違いが少ない。
- 他の教科に比べて、前段階の割合が多い。肢体不自由のある児童生徒にとって、運動の技能に関する学習は難しい内容が多いと言える。
- 保健分野や知識では、次の段階の学習を設定していることがある。

「学習の内容段階表」を活用を通して

- 国語と算数・数学については、実態と実際の学習内容の段階の違いが小さくなった。
- その他の教科では、段階の違いが大きく見られる。

↓

「学習の内容段階表」により、学習内容に見通しをもつことができた。

まとめ

簡易なアセスメントツールとして「学習の内容段階表」を作成・活用

↓

見る人によって評価が異なる。

↓

- チェックすることが負担
- チェックして残すことで満足

見る人によって評価が異なる。

↓

複数の目で子どもを捉え、話し合うことが大切

指標を共有することにより
チームで子どもを見る

学習の内容段階表

「学習の内容段階表」のメリット

教科の連続性・系統性の整理

- 学習指導要領への理解を深める。
- 教科間の関連が見やすく、横断的な指導につなげることができる。

教員間の共通のツール

- 話し合いの場面で活用できる。

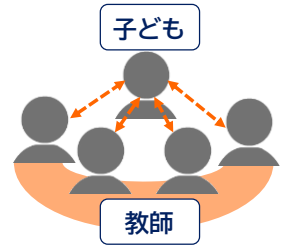
「子どもを評価する」

目標の設定

指導計画の作成

指導の実施

評　価



点を結んで線にする

アセスメント　教師が互いに理解し合い教育に生かす

「学習の内容段階表」という共通の指標

子どもに関わる複数の教師の目で評価

何が違うのか、何が最適かを考える

今後の課題

「学習の内容段階表」

簡易にまとめたことによる問題点

「学習の内容段階表」だけで学習計画は立てられない。

根拠は学習指導要領にある。

障害の重い子どもの指導

自立活動を主とした教育課程

自立活動

- 1段階の内容を習得し目標を達成するための指導
- 学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための指導

障害の重い子どもの教科学習

各教科等を合わせた指導

学習指導要領に示される各教科等の目標・内容等

指導内容の選択

指導内容の組織

何を
どのように
学ぶか

横断的な指導 ― 各教科・領域ごとに評価

将来の自立と社会参加を見通した指導

学習の内容段階表	個別の指導計画
学校として指導するべき内容を考える視点	**個人**の課題を焦点化する視点

相互に関連づける

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

学習の内容段階表 ⇔ 個別の指導計画

評価に基づいた授業改善

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の推進

おわりに

One for all, All for one

一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために

チームで一人の子どもを見る体制作り

＝アセスメントをした教員集団

自分の見方 ／ 他の人の見方

アセスメントから始まる

今日よりも明日へ

- 工 一人一人が輝き笑顔あふれる子
- チ 夢に向かって挑戦し続ける子
- カ 素直に感謝の気持ちを表せる子